

2009

11 武士道

日本思想の解明

BUSHIDO:

The Soul of Japan

新渡戸稲造著 矢内原忠雄訳 李登輝解題

作法の懇懇鄭重は、日本人の著るべき特性にて、外人視察者の注意を惹くところである。もし単に良き趣味を害することを怖れ、なせに過當の時、礼儀は貧弱なる徳である。真の礼はこれ反し、他人の感情に対する同情的思いやりの外に現われざるものがある。それは非礼正なる事物に対する正なる尊敬、これが社会的地位に対する正なる尊敬を意味する。何となれば、社会的地位は、何れ全権的差別を表わすものではなく、本来はしるしの価値に基づく差別であつたからである。》

台湾は、近隣の沖繩と實に親密なつきあひ方をしつゝ、文字通り、一夜帯水といつた地理的親近感もあり、やはり沖繩の人々の、京都の柳川に「守礼の門」を構へつゝといふ事案にも象徴的に表われつゝ、非常に「礼」を重んずる。他者に対して常に温かい人々だからである。これこそ支那の「礼」は、武士道の根幹に、古来「豊稔厚穡、稔の國」に住む日本人全体に通じ「懇懇鄭重なる作法」として列島全土にくちく浸透し定着してゐるのだ。疑いもなく、日本そのものが「守礼の國」以外の何ものでもない。新渡戸稲造先生は、「武士道」の中で、このお話を、日本人的な「礼」と「愛」と結びつけて、次のように述べている。(李登輝解題)

礼の最高の形態は、ほとんど愛に接近する。吾人は敬虔なる心をもつて、「礼は寛容に慈悲あり、礼は如石初歩礼は誇り、驕りならず、非礼を行わず、己の利を求めず、横代ならず、人の悪を思はず」と言ふのである。テウ・エ教授(1867-1928 米田動物学館、日本の甲冑の研究著者に有名)が人性の六つの要素を挙げたる中、礼に高き地位を与へ、これをわづらひ社交の最も成熟せる果實であるとしたことも、怪しむに足らぬ。礼はかく礼を尊ぶけれども、決してこれを諸徳の第一位に置くものではない。これを分析すれば、礼の上高を階級の他の諸徳と相関的関係にあると見いだすであらう。それは、いずれの徳も孤立に存在しなからぬ。

礼は武人の特殊な徳として賞讃せられ、その徳より以上の高き程度の尊敬を払ふは、或は礼に払ふは、故に、その偽物や起つてきた。孔子も虚礼の礼にあつては、あたかも吾樂の吾樂におけるか、とくであることを、よく教へた。礼の社交の不可欠要件に高き高き時、青少年に正しき社交の態度を教ふるため、行儀作法の詳細な体系を制定せしむるは当然である。人に挨拶する時は、口は身曲げず、口は歩むは、最大の注意をもち、教へられ、如く学ばれた。食事の作法は、一つの学問にお達し、茶を飲むは、礼の契機として、礼者に高き高きされた。教養ある人は、当然、これらに精通せるものと見待たれる。》

「礼」の章の最後は「茶道」我國時代の瞑想的隱遁者、千利休(1522-1591)の工夫による作法の遊戯以上のものです。

世俗から遮断せられた小室。西洋の書畫骨董の目眩惑生外、掛物は色彩美を以、水墨の趣。些の産物も、宗教的恐怖なし。心の平靜、感情の明澄、正心思慕。新しいアートの会得の方策は、

長年之眠るの NETIS 株式会社 このウェブは、NETIS のウェブ内訳。

- 1 ネット風来坊...NETIS 候補
2 シロクマツト...NETIS 登録
3 ロンケットオーガ...NETIS 登録
4 森のタロー...NETIS 登録

- 1 切土・盛土用、自然侵入促進型 自然の草も木も、の植生ネットです。新製品の NETIS 登録候補です。他の3点は NETIS 登録済みです。
2 軟岩・硬質土壌用 植生マット。
3 切土・盛土用、100%自然分解の張芝。
4 森の中の植生。森の委ね、表へ還す。以上は「人工芝」なる字句はありせん。看板は「緑化資材」には如何。資料は別添。御愛顧お願いの次第。 武蔵敬白

新渡戸先生が流し述べておられる事に感動した。(二三情報記) 「私の強固せんと欲するは、敬格とす礼の儀の遵守の中に、余れは道徳的訓練である」礼儀作法は、枝葉末節に至る詳細に規定せられ、これが流儀と異にする諸流派の生じた。これらからすれば、すなわち窮極の本質に於ては一致する。小笠原流宗家(小笠原清盛 1846-1913)の述べてる言葉に於ては、「礼道の要は心と練である。礼とわづらひ、凶人剣とわづらひ、同じも害を及ぼすこと、礼とわづらひと云ふに在り。換言すれば、絶えず、正しき作法を修するに在り。人の身体の本心の部分及び機能に完全なる秩序を生じ、身体と環境とが完全に調和し、肉体に対する精神の支配を表現するに至り、といふのである。》